

「かんぽの宿恵那」 地元資本で再出発

バローなど出資 4月に開業

日本郵政保有の宿泊施設で1月末に営業を終了した「かんぽの宿 恵那」(恵那市大井町)が、地元資本の民間ホテル「ゆずり葉」として4月中旬にリニューアルオープンすることが11

日、関係者への取材で分かった。バローホールディングス(HD)が筆頭株主を務める新会社「恵那峡リンクス」が土地と建物を所有し、旅館コンサルタントを手がける「女将塾」(東京)



1月末に営業を終了した宿泊施設「かんぽの宿 恵那」=恵那市大井町

がホテルを運用する。恵那峡リンクスは、同施設を引き継ぐ目的でバロー

HDら地元企業12社が出資して昨年11月に設立。社長はイベント企画運営会社「ハラカラ」の柄澤一樹社長(33)が務める。恵那市が13日の市議会議決を経て、日本郵政から施設の土地と建物を買取り、同額で恵那峡リンクスに売り渡す。恵那峡リンクスは客室の改装などを検討しているという。日本郵政が保有していた全国33施設のうち、「かん

ぽの宿 恵那」などを除いた29施設は民間会社を買取り、運営を始めている。一方、恵那については、恵那市が市有地を寄贈して開設された経緯があるため、市が民間への売却に抗議。購入を希望する市と日本郵政が協議をした結果、市が一度買い取り、民間に売却することで日本郵政側と合意していた。(服部潤)